Ms.SQUARE no.94 **きらり** 清瀬で生きる女性にインタビュー

好きなことを追いかけて

学校法人　日本社会事業大学　理事長　名取 はにわさん

内閣府男女共同参画局長、NPO法人日本BPW（ビジネス・プロフェッショナル・ウイメン）連合会理事長を歴任し、現在日本社会事業大学で理事長を務める名取さん。平成30年秋には、長年にわたる内閣府行政事務の功労が認められ「瑞宝中綬章」を受章しました。これまでのキャリアと若い世代への思いを伺いました。

●男女共同参画という仕事

長年、男女共同参画行政に携わってきました。総理府男女共同参画室長として、第4回世界女性会議（北京）に政府代表団として参加し、平成11年男女共同参画社会基本法成立に携わりました。今年は20年目の節目となります。

橋本行革で唯一局の創設が認められた内閣府男女共同参画局長時代は、「日本の少子化は、女性の社会進出が進んだことが原因だ」など、男女共同参画に対する反動が激しい時でした。そこで、OECD（※）の国際比較調査をすると、日本は、女性の社会参画も進まず出生率が落ちている特異な国だと分かりました。仕事と子育ての両立支援をする国は、女性が社会参画し、子どもも生まれていたのです。

NGO（国際婦人年連絡会など）の応援を受け、平成14年第2次男女共同参画基本計画を閣議決定することができました。

男女共同参画の仕事は、国や自治体など、それぞれが良いところを互いに取り入れ、みんなの幸せを目指す行政であるというところが良いですね。

●全ての経験は生かされる

内閣府時代にいつも支えてくれたNGOに恩返しがしたいという気持ちもあり、NPO法人日本BPW連合会の理事長に選出され、4年任期を全うしました。上位団体の国際BPWは国連の諮問的地位を持つNGOです。日本BPW連合会は平成29年認定NPO法人となり、国際連合にインターンを連れて行くなど若い女性の支援活動をしています。

日本の女性の高等教育進学率は世界149か国中101位と低位です。女性にはぜひ勉強をしてほしい。

今は、日本社会事業大学の理事長を務めていますが、人生の集大成のような気持ちです。法務省時代、女子少年院で出院後の環境調整の仕事に携わったことが、今に繋がっていると感じます。その当時は分からなくても、一心に努めていると、どこかで経験が繋がる時が来ます。だから若い方には、自分にこの仕事が向いている・いないと考えるよりは、今できることを一生懸命やってほしいと思います。

●ターニングポイントは国内留学

法務省に入省したての頃、男性の先輩から、「係長をやるように言われたら、辞めて男性に譲るように」と言われました。こんなことを言われるのは自分の出来が悪いからだ…と思い込み、誰にも相談できずにいました。当時は落ち込み、仕事に対するやる気を失いました。立ち直りのきっかけは、好きな勉強を思う存分やることでした。20歳代の終わりに、国内留学で2年間勉強し、修士を取りました。論文を書いているうちに「あぁ、本当に人間は好きなことをやるように生まれてきたのだ」と何かが吹っ切れました。

●どう思われるかではなく、やりたいことを

今の世の中はSNSなどが普及していることもあり、他人の尺度で物事を考えがちです。仕事を頑張れば、反発や反対の意見は必ず出てくるものです。こんなことをしたらどう思われるのかなど考えすぎないこと。

また、今はリカレント教育といって、いったん働いても、また大学・大学院に行くこともできます。好きなこと、学びたいことを見つけて、楽しく、広い視野を持って、力を付けていけると良いですね。

（酒井）

※OECD＝経済協力開発機構

編集委員からの一言　酒井

なんとなく目を背けてきたセクハラや性についての話題。向き合うことから始めて、近い将来娘にも伝えていこうと思いました。名取さんのお話には、人生の先輩としてのメッセージがたくさんあり、学ぶことの多い取材でした。